

心配されるどころです。また、危険サイトにアクセスできないように制限するフィルタリングの利用もあまりされていないということです。このような実態を基に、保護者の皆さんをはじめとした大人は何をすべきかを考えなければならないことが喫緊の課題になってきました。

子どもにスマホを持たせる際、最も心配するトラブルといえば「有害サイト」「高額課金」「スマホ依存」であり、実際に起きるトラブルもこの3つがかなり多いことが言われています。さらに中学生以上になると、これに加えSNS関係のトラブルも増えてきます。現実的には、前述したように小学生のSNSがらみの誘拐事件が起きていますので、小学生だからと言って油断してはいられません。確実に年齢的に下がってきているようです。これについては、友達とのやりとりだけでなく、クラスやクラブ活動に関する連絡などもLINEをはじめとしたSNSが主体になることが多い上、Twitterなどでの発信、外部へ向けてのやりとりなども格段に増えてきます。

そこで、子どもにスマホを持たせる際の注意点や、家庭で厳守したい「絶対ルール」、ペアレンタルコントロールなどの「親ができる対策」を調べたところ、次のようなことが分かりました。

トラブルを事前に防ぐための対策としては、スマホでは機種本体にあらかじめ搭載されている機能や、契約している通信会社のサービス、アプリなどを使い、子どものスマホ使用を管理できるようになっていて、それを利用することを考えるとよいと思います。現在、もし何も設定せずに子どもにスマホを渡しているのであれば、ぜひ保護者が利用制限を設定する「ペアレンタルコントロール」をすぐに行うことをすべきです。「ペアレンタルコントロール」とは、パソコンやスマホ、携帯ゲーム機などの情報通信機器において、子どもの利用を親が制限すること、あるいはそのための機能やサービスです。子どものスマホに対して、アプリの利用制限をかけ、新しいアプリを許可なくインストールしたり、課金できないように設定することが可能となります。そのように年齢制限の設定をすることで、年齢にあったアプリのみを使用させることができます。

次に、13歳以下の場合には専用アカウントを取得することが大切です。子どもにスマホを持たせるとき、親のアカウントを共有で使わせていけばトラブルの原因になることがあります。子どもが小学生以下であっても、必ず保護者のアカウントとは別に、子ども用のアカウントを取得し、使い分けることが大切です。ちなみに、保護者が管理できる子ども用のアカウントを作成できるのは13歳未満までとなっています。

子どものスマホ利用を確認したい、制限をもっと細かく設定したいという場合は、フィルタリングアプリなどを利用する方法があります。多くの通信会社が提供しているサービスは無料で利用できる上、細かい設定も可能となっているので利用するとよ



マラソン大会を目指して「かけ足」始まる



遠足(1・2年 東公園)

と思います。

例えば、通信会社によっては、子どもの年代に合わせてフィルタリングを行うレベルに種類があり、有害サイトのブロックに加えて、GPSで子どもの居場所を把握することができたり、使う時間帯を指定したり、特定のアプリを制限したりすることもできるようになっています。その操作は、最初に設定をするだけで、親のスマホやパソコンから遠隔での設定が随時可能となっているようです。

フィルタリングを設定したスマホでは、機能制限がかかります。子どもが、ブロックされているサイトにアクセスしたい際は、親に許可リクエストを送り、承認を受けるという流れに多くがなっているため、子どもがスマホでどんなサイトを見ているか、ある程度は把握できるようになります。また、曜日ごとに、使う時間帯も簡単に設定できるので、細かく時間を設定したい場合などには都合よくなっています。



特別支援学級・甲山ブロック交流会

最後の対策としては、家族で「スマホ絶対ルール」について話し合う機会をもつことです。さまざまな対策方法がありますが、最も大切なのは保護者がきちんとした姿勢を貫くことだと思います。スマホは、保護者が子どもに買い与えるわけですので、最初にスマホを使う際、必ず家族でその使い方のルールを話し合い、そのルールに基づいた利用を約束しておくことが大切です。

ルールの内容については家庭によって違うのは当然ですが、その内容としては次のようなことを盛り込んでおくとういでしょう。

- 使用時間、使用する場所（食事中はスマホを見ないなど）
- 歩きスマホの禁止
- 約束を破った際にどうするか

ルールは、できれば明文化して、例えば、右のように紙に書いて残しておいたり、あるいはリビングなどの見えるところに貼っておいたりすることは効果的だと思います。

右ページには、中日新聞（11月26日・火曜）の朝刊「子にスマホ 悩む親 SNS通じた犯罪被害増加」という大きな見出しの記事を掲載しました。ここには、子どものスマホ使用について、多くの親の悩む姿が紹介されています。今後、子どもが成長する過程ではスマホを持ち利用するようになってきます。小学生の現時点では「持たせない」という手立ても考えられますが、将来的にはきっと難しくなると思います。いかにルールを守ることができるか、善悪の判断とともに、節度・節制する力を育てることが大きなスマホトラブルから子どもを守るために必要になってくると感じます。

コレだけは守ろう！

スマホのルール⑤

- ① 時間は夜9時まで!!
- ② 新しいアプリを入れたい時はパパかママに相談しよう
- ③ ネットに個人情報を書かない!
- ④ 歩きスマホは絶対にダメ!!!
- ⑤ ルールを守れない時はスマホを使用禁止にします。

家庭でのスマホのルール例

親にスマホ 悩む子

SNS通じた犯罪被害増加

大阪市の女児(三)が栃木県内で保護された誘拐事件は、同年代の子をもつ親たちも不安に陥れた。女児は会員制交流サイト(SNS)上で容疑者の男(三)と知り合い、事件に巻き込まれたとされる。スマートフォンが普及する中、わが子が被害に遭うリスクはどのようになっているのか。中部地方の親たちも頭を悩ませている。



スマートフォンでオンラインゲームをする女児。家の中、親の目が届く所で使用が許されている。25日、愛知県一宮市で

持たせない／やりとり確認困難

「親としてどうしたいのかわからない」。誘拐事件を受けて、岐阜県大垣市の会社員女性(四)は戸惑う。中学二年生の娘(一八)にそれぞれスマホを持たせ、SNSの利用も制限していない。子どもを信用しているため、チェックはしていないという一方で、SNS上で自分を偽って近づかれたりしたら、気づきようがないと悩む。「まさにこういう事件になるのが嫌だから持たせていない」と話すのは、小六の長男をもつ大津市の男性会社員(四)。あると連絡に便利とは思って、代わりに公共電話の場所を教えるなどしている。「親が知らない間に、危ない情報につながってしまっている。持たせるのは怖い」と、高校生になるまではスマホを持たせないつもりという。

名古屋市長白区のアインシャルプランナー、柴田時子(三)も、中二の長男(一三)にスマホは持たせていない。SNSには世界中の誰ともつながるから怖い怖さがある。自宅にある家族共用のタブレット端末を、家の中で部活動の連絡

などに使わせているという。親が対策を工夫して子にスマホを使わせても、心配になる出来事は起きる。

愛知県一宮市のパート女性(四)は、小五の娘にスマホを使わせているが、ネット接続は自宅内に限っている。娘は最近、見知らぬ人とも対戦できるオンラインゲームに熱中しているが、顔も名前も知らない。友達から小学校名を聞かれ、教えたことがあるという。「今のところ大丈夫なことも教えてくれるが、いつまで続くか」と不安がる。

津市の男性会社員(四)は、小六の長女(一三)の希望で今春スマホを持たせた。親の目が届く自宅リビングでだけ使わせ、知らない人と接触しやすい短文投稿サイト「ツイッター」などのSNSは禁じているが、利用の内容については娘に見せてとは言えず、詳しくは知らない。「長女と同一年の女児が被害に遭った事件を、何となくSNSを使わせていたが、怖い」と受け止める。「SNSの危険性を親子で話すことはできて、思春期の子どものスマホを親が手

中日新聞（11月26日・火）朝刊の記事